

能登町総合計画(案)

【中間報告】

総合計画策定委員会では、「能登町まちづくり計画」をもとに、住民の皆さんからのご意見やご提案を踏まえ、町の将来ビジョンを検討してきました。

今回はその中間報告です。今秋の計画策定と早期の実行を目指し、引き続き施策の具体化のための検討を行ってまいります。

■社会・経済の変化

- ・人口減少・超高齢化の進行
- ・価値観の転換
- ・循環型社会の構築
- ・情報のネットワーク化
- ・広域交流の拡大
- ・地方分権の推進
- ・行政と住民の協働の推進

■能登町の概要

- ・海山川の豊かな自然を有する。
- ・祭りや民俗風習が継承されている。
- ・人口減少、少子・高齢化が進行している。
- ・産業別就業人口は、県全体と比較して第1次産業の占める割合が多いが、年々、第1次産業は減少し、第3次産業が増えている。

■住民意向

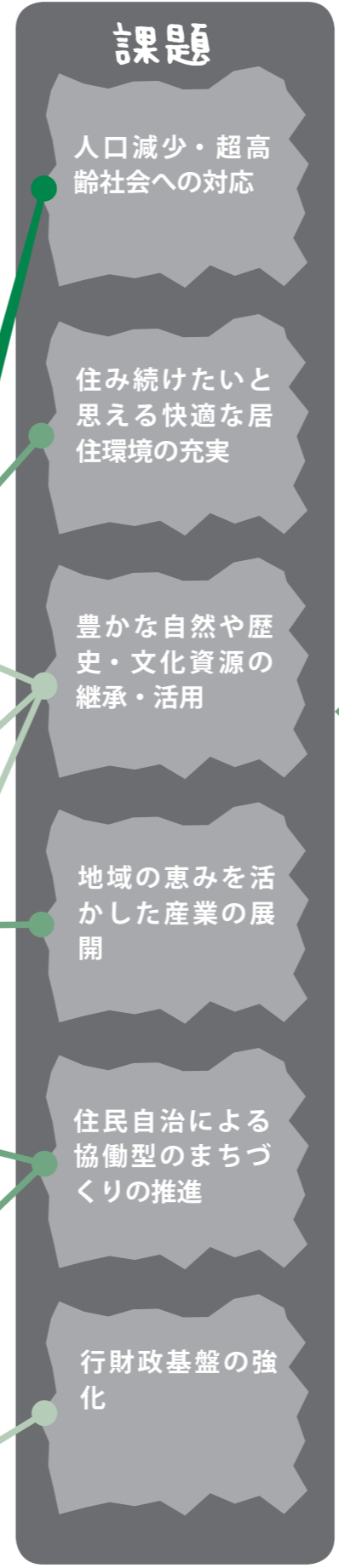
【合併前住民意向調査(H15.3～4実施)】
※重点施策の要望の設問で27項目中の上位10項目

項目	割合
1 福祉施設、介護体制の充実	9.5%
2 雇用機会の創出	9.2%
3 バス・鉄道等の公共交通の利便性	8.6%
4 医療施設、救急体制の充実	8.2%
5 住民と一体となったまちづくりの推進	7.6%
6 都市との情報格差をなくすための情報通信基盤の整備	6.9%
7 日常生活の利便性	5.3%
8 道路整備による交通利便性の向上	5.2%
9 生活道路の整備促進	4.3%
10 農林水産振興への取組み	3.6%

【能登町の未来を語る会(H17.7～10実施)】

※多くのご意見が寄せられた項目

項目	件数
1 道路整備の推進	38
2 行政運営の効率化	35
3 農林水産業の振興	26
4 広報・公聴の充実	17
5 コミュニティ活動の促進	16
6 公共交通の充実	16
7 町土の保全	16
8 廃校舎の活用	15
9 財政運営の効率化	14
10 観光の振興	14
11 新規産業の創出、産業連携の促進	13
12 情報通信基盤の充実	12
13 学校教育の充実	12
14 交流活動の推進	11
15 住民参画の推進	11
16 高齢者福祉の向上	11
17 防災・救急体制の強化	11
18 定住の促進	10



基本目標

「奥能登にひと・くらしが輝く ふれあいのまち」

～協働と循環により躍進するまちづくり～

基本方針

7つのしましょう

- 大切にしましょう【自然環境】**
1. 豊かな自然を守り活かすまちづくり
自然環境の保全・活用/循環型社会の構築
- 生き生きしましょう【生活基盤】**
2. 潤いある暮らしを支える快適なまちづくり
町土の保全/町土の計画的利用/道路整備の推進/公共交通の充実/交通安全・防犯対策の充実/防災・救急体制の強化/公園緑地の整備/ごみ・し尿処理の充実/水道施設の充実/下水道の充実/定住の促進
- 挑みましょう【産業振興】**
3. 地の恵みを糧とする活力あるまちづくり
農業の振興/林業の振興/水産業の振興/観光の振興/商業の振興/工業の振興/新規産業の創出、産業連携の促進
- 支え合しましょう【健康・福祉】**
4. 健やかでやすらぎのあるまちづくり
保健事業、健康づくりの推進/医療体制の充実/児童福祉の向上/高齢者福祉の向上/障害者福祉の向上/社会保障の充実
- 育みましょう【教育・文化・スポーツ】**
5. 創造性と元気溢れるまちづくり
学校教育の充実/生涯学習の推進/地域文化の振興/文化的遺産の保護・活用/スポーツ・レクリエーションの振興/国際交流の推進
- ふれあいましょう【住民参画】**
6. 住民が連携・交流するまちづくり
コミュニティ活動の促進/住民参画の推進/広報・公聴の充実/交流活動の推進
- 結びましょう【情報・行財政】**
7. 高度通信網の活用と健全な行財政のまちづくり
情報通信基盤の充実/行政運営の効率化/財政運営の効率化

審議会委員紹介⑤



松原利吉さん
(能登町商工会)

縄文時代を四千年もの間住み続けた輝かしい歴史を持つ能登町民の一人となり、あっという間に一年間が過ぎました。

私は、まちづくりとは「住む人が安全で快適な環境を築くこと」と定義づけており、「向こう三軒両隣」という言葉がありますが、過疎化や高齢化が進むなか、もう一度考えてみたい言葉です。それに、真脇縄文人の知恵をまちづくりに活かさないものか漠然と考えております。



谷内與三郎さん
(のと森林組合)

能登町が誕生して一年。合併協議会での決定事項などを遵守しスタートしたものの、危機的な状況ばかりが伝えられ、町民は不安な気持ちを抱いている。

町民と町職員、議会が共通理解を図り、行政改革や意識改革により町づくりを進めたい。

農林水産業のきびしい現状を打破するような総合計画を目指したい。

瑞穂小学校 瑞穂中学校 最後の卒業式



明治6年、院内小学校として設立以来130年続いた瑞穂小学校。昭和22年、学制改革により設立され60年の歴史を刻んできた瑞穂中学校。昭和48年に小中統合校舎が完成してからは、互いを尊重し合い、小中一丸となって地域・家庭・学校が協力して子どもたちを育ててきました。この瑞穂学園が平成18年3月、長い歴史に幕を下ろしました。

瑞穂小学校は、平成16年に完全複式学級となり、児童生徒たちの将来や学校本来の機能を考え「学校再編成もやむを得ない」と苦渋の選択をすることになりました。「わたしら4月から違う小学校に行きんよ!」と元気に話してくれた小学1年生の女の子。瑞穂学園の児童生徒たちは、たくさんの希望を胸に、それぞれがこの春から新しい学校での生活をスタートします。

さようなら 三波小学校 最後の卒業式



目の前に日本海が広がる三波小学校は、明治6年の開校以来、地域のシンボルとして、文化の中心として、子どもたちの教育の場として、長くその役割を果たしてきました。この学校が、平成18年3月をもって閉校しました。

全校児童7人。三波小学校は「みんなが主役になれる学校」でした。少ない児童数がゆえに、児童一人ひとりがあらゆる経験をする事ができたからです。小規模校としての特色を生かし、子どもたちが自ら考え、学ぶ力を伸ばせる学校でした。



制服姿もりりしく、最上級生としての役割をしっかりと果たしてきた卒業生

3月16日には最後の卒業式が行われました。二人の卒業生が受け取った卒業証書は、自分たちで作した和紙に名前が書かれたもので、世界で一枚しかありません。中平義則校長からは「二人の最上級生としての活躍は目覚ましかったです。たくさんの感動をありがとうございました。とお祝いの言葉が贈られました。」

閉校式は、3月25日に行われ、児童たちは慣れ親しんだ母校との最後の別れを惜しみませんでした。この学校で学んだことを忘れず、新しい学校で自分たちの夢に向かって歩き続けてください。



お世話になった先生方に感謝の気持ちを込めて花束を



瑞穂学園最後の卒業生となったのは小学校8人、中学校13人の児童生徒たち。3月15日に行われた最後の卒業式では、山本松二校長から卒業生一人ひとりに卒業証書が手渡され「あなた方の限らない前途に夢を託します」とはなむけの言葉が贈られました。中学校卒業生を代表して、畠中さゆりさんが「どんな行事にも最後という言葉がつき責任を感じましたが、お互いのことを理解し励まし合い、やり遂げることができました」と答辞を述べました。

学舎との最後の別れとなった閉校式は3月26日に行われ、子どもたちはさまざま思い出を心に刻み、それぞれの新しい環境へと旅立ちました。



内浦総合運動公園

すぐそばに海が見える総合運動公園。ここでは、ソメイヨシノのほかにもしだれ桜や八重桜、大島桜など、およそ250本の桜があるんだよ。

陸上競技場の周辺やキリコ橋から海沿いへと続く桜並木が見どころだよ。みんなも一度散歩してみてね。



柳田植物公園

ここではソメイヨシノのほかにも、しだれ桜や山桜などおよそ250本の桜が植えられているんだって！

公園内の桜並木は満開になると桜のトンネルをくぐってみたいになるんだよ。少しずつ開花の時期が違う桜があるから、長く桜を楽しめるよ。家族みんなで行ってみよう！



内浦放牧場

牧場の周辺におよそ200本の桜が植えられているよ。カワイイ牛たちもこの桜を見て楽しんでいるのかもね。ドライブコースにもいいよね！



宇出津の遠島山公園

奥能登で唯一の吊り橋「しらさぎ橋」がある遠島山公園。橋からの景色を眺めたり、桜を見ながらゆっくりお弁当を食べるのもいいよね！

お花見の季節には「ぼんぼり」も飾られてたくさんのお花見客で賑わってるよ。



黒川岩井戸公民館のしだれ桜

旧黒川小学校の建物の後ろに、見事なしだれ桜があるんだよ。子どもたちの自慢の桜だったんだって。今年もきれいに咲くといいね！



鶴川の山田川沿い

鶴川を流れる山田川沿いに並んで咲くソメイヨシノ。道行く人たちの心を和ませてくれるよねえ。水面に映る桜の景色もなかなかおつまもんだよ！



今回は桜の名所を紹介するよ



危険な夜道に反射タスキ

▼タスキには名前を書いて、すぐ目のつくところに置いてくださいね



高齢者交通安全事故防止連絡会は2月27日、町内の一人暮らしの高齢者などを対象に夜光反射タスキ3,000本を配布しました。タスキは民生委員や老人会などが中心となって各家庭へ配布されました。配布初日となったこの日は、新平悠紀夫交通安全協会長や竹西フミ子民生児童委員連絡協議会長らが、真智敦子さん(76歳・松波)宅を訪れタスキを手渡しました。新平会長が「玄関などに置いて外出時に使ってください」と言葉をかけると、真智さんは「しっかり活用したいと思います」と話していました。みなさんも夜間の外出には十分注意しましょう。

宇宙に輝く「きりこ祭り」

▶満天星の望遠鏡で観測する土川さん



星の名付け親に。満天星が発見した4つ目の小惑星が2月23日に「KirikoMatsuri(きりこ祭り)」と命名されました。小惑星は満天星職員の土川啓さんが平成11年に発見した星です。能登町誕生を記念し名前を募集したところ、約750通の応募があり、「あばれ」や「きりこ」など祭りに関係のある提案がたくさんありました。祭りのテーマで一番数の多かった「Kirikoきりこ」は似た名前があるため「KirikoMatsuri」として申請しました。土川さんは「能登町にふさわしい名前になった。今後もKirikoMatsuriの観測を続けたい」と話してくれました。

海の幸に舌鼓! 「しかたの風 in のと」

しかたの風 in のとは、3月4日、5日に能都町漁協横特設会場で開催されました。海の幸を存分に味わうことができる食のイベントに町内外から約6,000人が訪れました。

会場には30店舗のグルメ屋台や炉端焼きコーナーが設けられ、能登町の特産品や海産物などが販売されました。来場者は、イカやカニなど自分の好みの食材を炉端で焼いたり、お土産に持って帰ったりと思思いにイベントを楽しんでいました。



▲5日の「マグロの解体・即売」には130kgのマグロが登場!



▲新鮮な海の幸を炭火で焼いて食べると格別です

辺見じゅんさんが来町

▲忠魂碑に手を合わせる辺見さん(右)と花井さん(左)



映画「男たちの大和」の原作者・辺見じゅんさんが、3月12日に当目を訪れ、作品の中に登場する白淵馨大尉の名が刻まれた忠魂碑に花束を手向けました。白淵大尉は「敗レテ目覚メル」などの名言を残し、戦艦大和と運命を共にした人物です。大尉の父・清忠さんの出身地である当目地区では、戦後60年を機に郷土ゆかりの先人として調べ始め、今回は大尉に関する著書がある辺見さんを招待しました。

粉雪の舞う中、辺見さんは大尉の遠縁にあたる花井信子さん(大箱)や地区住民らと高台にある忠魂碑に足を運び花束と線香を供えて手を合わせました。

「オヤマ」で五穀豊穡を祈願

石を祀り、五穀豊穡を祈願する柿生・神道地区の奇祭「石仏山祭」が3月2日に行われました。祭りは、女人禁制の聖域とされる石仏山に地区の男衆が太鼓を鳴らしながら登っていきます。途中、しめ縄で結界を張り、高さ3メートル、幅60センチの巨石の前で神事が行われます。

この石仏山祭は、社殿建築が出現する前の原始神道を今に伝えるとされる貴重な祭りです。男衆は、巨石に手を合わせ五穀豊穡と地区の繁栄を祈願しました。



キラッ!と輝く日々はあなた次第

▶囲炉裏を囲んでの座談会



このあとテレビ、舞台などで活躍中の女優、あき竹城さんを講師に招き「キラキラ輝く人生のために」をテーマに記念講演会が催されました。あきさんはユーモアたっぷりの「山形弁」で、芸能界での苦労話などについて講演し、会場を大いに沸かせました。

- ◆社会教育功労者表彰受賞者
 - 【個人】小倉昭治さん(宇出津)
 - 野口英美さん(寺分)
 - 齋藤正治さん(小木)
 - 【団体】唐獅子太鼓保存会

能登町生涯学習振興大会が、2月26日に能都庁舎を主会場に行われました。午前中に能都郷土資料館で開かれた第1分科会では、「能登町の今と昔」と題して町内の中学生と地域住民との座談会が行われました。能登の方言や建築などについて意見交換を行い、最後に「いしり」を使った郷土料理が振る舞われました。

午後からは能都庁舎で式典が行われ、表彰式では文化の普及や地域社会に貢献した個人や団体が社会教育功労者表彰を受けました。



▲「帰りは気をつけるんだよー!」と手をふってくれたあき竹城さん